

報道関係各位

2013年10月16日

平成25年度・証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定 建設・住宅・不動産部門で『第1位』に！4回連続(5回目)

大東建託株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：熊切直美）は、平成25年度「証券アナリストによる優良企業選定」の建設・住宅・不動産部門で第1位を獲得いたしました。これは4回連続5回目の受賞となります。

同選定は、公益社団法人日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会が、企業情報開示の促進と向上を目的に実施しており、今年で19回目となります。各業種の証券アナリストが企業のディスクロージャーの取り組みを評価し、優良企業を選定します。当社は建設・住宅・不動産部門16社のなかで1位に選定されました。

■ 5分野の評価項目全てで1位を獲得！

「ディスクロージャー優良企業」の選定は、経営陣のIR姿勢、説明会などの対応、コーポレート・ガバナンス関連の情報開示など、企業のIRに対する総合力が評価されます。当社は、選定評価の5分野全てにおいて**1位**を獲得いたしました。

評価概要（選定結果通知資料より抜粋）

① 経営陣のIR姿勢等（1位）

社長がIR担当経験を活かし決算説明会での質疑も自ら対応していることや、社長以下経営陣がIRに理解があり、一貫性もある点等が評価されました。

② 説明会等（1位）

短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っている点に加え、質疑応答が満足できること等、説明会、インタビューにおける開示について、高い評価を受けました。

③ フェアードスクロージャー（1位）

取り組み姿勢等この分野全体について、総じて高い評価となりました。

④ コーポレートガバナンス関連（1位）

具体的な株主還元策の数値目標を明示していることが、他社と格差のある極めて高い評価を受けたことや、中長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策を十分に説明している点も評価されました。

⑤ 自主情報開示（1位）

期中の定量的データの開示について、月次情報等を十分に開示している点や、CSR報告書・環境報告書の内容が充実している点が評価されました。

【これまでの大東建託の順位】

平成25年度	平成24年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
第1位	第1位	第1位	第1位	第2位	第3位	第1位

建設・住宅・不動産部門については平成23年度は評価を一時休止していましたが、平成24年度は建設部門の企業を7社減らし住宅設備企業を加えるなど、対象企業を見直して再開されました。

● 10月11日表彰式が行われました



● 補足) ディスクロージャー優良企業選定について

業種別の評価対象について

- ・ 原則として東証一部上場株式時価総額を基準と選定している。
- ・ 建設・住宅・不動産部門では16社が選定され、本年度の順位は以下のとおり。
1位・大東建託 2位・長谷工コーポレーション 3位・LIXILグループ 4位・三菱地所
5位・大和ハウス工業 7位・積水ハウス 8位・リンナイ 9位・TOTO 10位・大成建設
11位・東急不動産 12位・大林組 13位・住友不動産 14位・東京建物 15位・清水建設
16位・鹿島建設

業種別の評価方法等

- ・ 証券アナリスト経験3年以上でかつ現在当該業種担当概ね2年以上のアナリスト、延430名が評価を実施。各評価対象企業の評価に当たっては、過去1年間における当該企業への接触回数(4回以上)の要件を満たしている。

ディスクロージャー優良企業(抜粋)

食品／アサヒグループホールディングス 化学・繊維／旭化成 医薬品／アステラス製薬
石油・鉱業／JXホールディングス 鉄鋼・非鉄金属／住友金属鉱山 電気・精密機器／オムロン
自動車・部品・タイヤ／日産自動車 運輸／東日本旅客鉄道 通信・インターネット／KDDI
商社／伊藤忠商事 小売業／ローソン 銀行／みずほフィナンシャルグループ など

※ 詳細はこちらをご覧ください。

日本証券アナリスト協会ホームページ

<http://www.saa.or.jp/disclosure/selection.html>

以上

<この件に関するお問い合わせ>
大東建託株式会社・経営企画室
TEL (03)6718-9068